プロジェクトの概要

社会連携へ向けたアピールポイント

浜名湖におけるアマモ場の再生によるアサリの資源回復に向けた共同研究

キーワード:アマモ、アマモ場再生、プロトプラスト

- ・浜名湖のアサリの激減によりアサリ漁が深刻な打撃を受けています。2015年頃から漁獲量が減少に転じ,現 在は最盛期の1/10にまで落ち込んでいます。潮干狩りもこの数年実施出来ない状況が続いています。地元の 浜名漁協関係者が立ち上げたNPO法人浜名湖フォーラムではこの不漁がアマモ場の減少に関連していると推 定し、アマモ場の再生に向けたアマモの植栽作業を開始しています。夏季にアマモの種を採取し、低温保存し、 冬季に粘土に埋め込んだ種を植え付けてアマモの生息域の復活を目指しています。本研究で実施するアマモの 高温耐性の株の選抜、プロトプラストからの増殖技術の開発によりアマモ場の再生事業の一助となることを目 指しています。アマモ場の再生の結果、アサリの資源量の回復へと繋がることで地域貢献が期待されます。
- ・尚、本プロジェクトは静岡大学サステナビリティセンターのプロジェクト助成を受け、ふじのくに海洋生物化 学研究所内の共同研究として実施しています。
- ・この取り組みが中日新聞にも取り上げられています(2021年8月31日)。詳しくは以下のURLにありますサス テナビリティセンターホームページのメディア掲載情報をご覧下さい。
- https://wwp.shizuoka.ac.jp/sustainability-ctr/information-2/media/



浜名湖弁天島のアマモ群落

・上述のようにこの取り組みはNPO法人浜名湖フォーラムの活動への協力という形でスタートしました。今後 は地元漁協や自治体との連携も視野に入れています。



浜名湖弁天島に設定した共同実験区

プロジェクトメンバー

徳元 俊伸 創造科学技術大学院 学術院理学領域 教授

- ふじのくに海洋生物化学研究所所長 ・ 笹浪 知宏 農学部教授 農学部准教授 ふじのくに海洋生物化学研究所 ・富田 涼都
- 相談に応じられる関連分野
 - ・海藻からのプロトプラストの育成
 - ・アマモの室内育成



